



ワークシートなど

3章の問い

武士による政治が行われたことによって、社会はどのように変化したのだろうか。



古代から雰囲気が変わったね。描かれているのはどんな人たちなのかな。



●小学校で学んだ人物と主な出来事

↑1『平治物語絵巻』(模本) [東京国立博物館蔵]

平安時代	鎌倉時代	南北朝時代	室町時代	戦国時代
1180 源氏と平氏の戦い (~85)	12世紀末 源頼朝が鎌倉幕府を開く →2 源頼朝 	14世紀半ば 京都に室町幕府が開かれる	○足利義満が金閣をつくらせる ○足利義政が銀閣をつくらせる →3 足利義政 	○戦国大名が勢力を争うようになる

●「学習する時代の見通し」をもとう

🗨️ 対話 🗨️

これから学習する時代について、どのような時代なのか、ほかの人と話し合ってみよう。

その際、小学校で学習した人物や主な出来事、前の章で学習した時代の特徴を踏まえよう。

★この時代では、前の章で学習した時代からどのように社会が変化するか、予想を書こう。

この章で学習する節の問い

1節

武士の世の始まり

なぜ、武士が政治の実権を握るようになったのだろうか。

p.66~75

2節

武家政権の内と外

ユーラシア大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのだろうか。

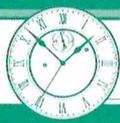
p.78~89

3節

人々の結びつきが強まる社会

なぜ、人々は結びつきを強めていったのだろうか。

p.92~101



? 次の場面を探してみよう! 次の場面は、ア~カのどれに当たるか、()に記号を入れてみよう。

- ① 屋敷の周りには、堀がめぐらされています。 ()
- ② 屋敷の主人が、納められた品を確認しています。 ()
- ③ 街道沿いに市が開かれています。 ()
- ④ 田に水を入れる水車が、川に架けられています。 ()
- ⑤ かまどがある工房で農具を修理している人がいます。 ()
- ⑥ 僧侶が、人々を集めて仏の教えを説いています。 ()

ヒント ①→p.66、70 ②→p.70 ③→p.92~93 ④→p.92 ⑤→p.92 ⑥→p.74

A

B

C



1

2

3



ここからは中世です。私たちは、鎌倉時代といわれる時代にやってきました。ここは西国とよばれた西日本のある農村の様子です。この日は人々にとって、特別な催しがある日のようです。

見方・考え方

平安時代から鎌倉時代に移り変わって、どのような点が変化しているのでしょうか。また、なぜそのように変化したのでしょうか。例えば以下の点などに注目し、周りの人と話し合ってみましょう。

- ・大きな屋敷のなかや周りにいる人々
- ・場面②のように仏の教えを人々に説く様子

対話

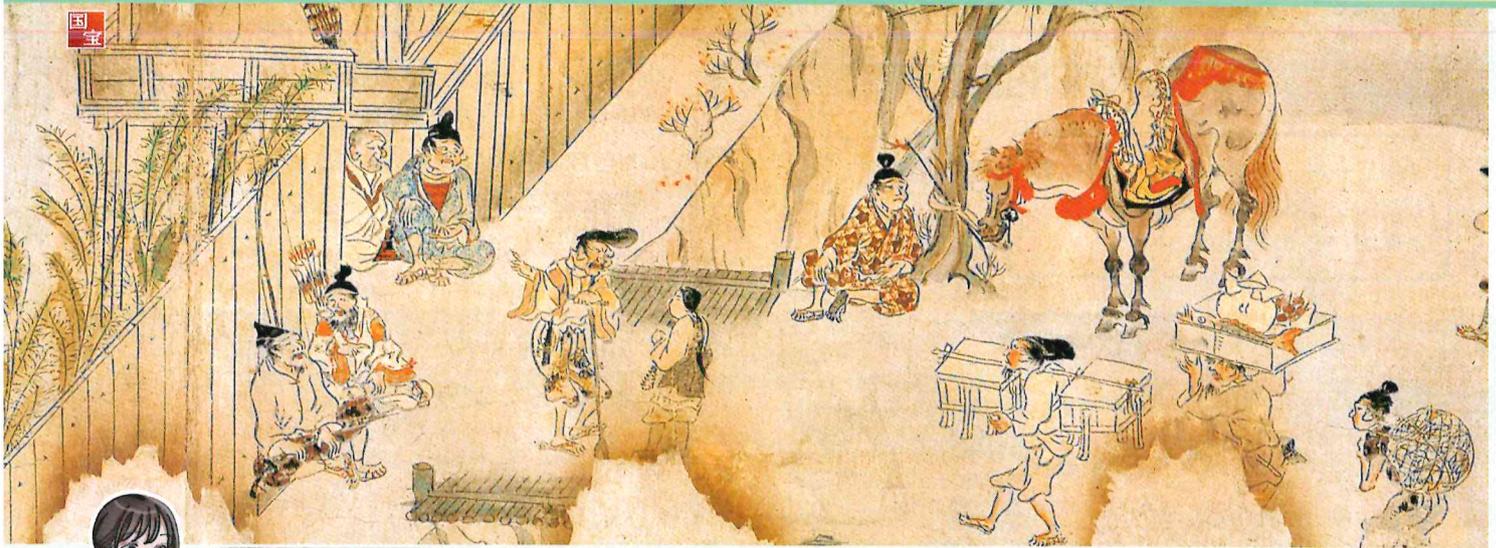
人間と一緒に、動物も働いているね。動物たちは、現在に置きかえるとどんなものの代わりをしているのかな。



第1節 武士の世の始まり



1節の問い なぜ、武士が政治の美権を握るようになったのだろうか。



門前に座っている人は何をしているのかな。

↑1 荘園支配者の館 (→p.64B3) 【粉河寺縁起絵巻|和歌山県 紀の川市 粉河寺蔵】

資料活用 なぜ、絵の右側の人々は物品を館に運んでいるのだろうか。

1 各地で生まれる 武士団

解説 寄進

寄進とは、土地や財産などを寄付する行為をいいます。土地を寄付した場合、実際の土地の管理は、もともと土地をもっていた人が行いました。寄進すると、領主である貴族や大寺社にみつぎものを納める必要がありますが、国司が取り立てる税よりも少なく済むため、人々は税を逃れる特権を求めて盛んに寄進を行いました。



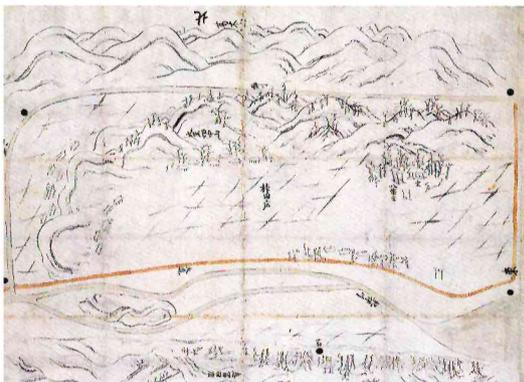
学習課題

武士は、どのようにして登場し、力をつけていったのだろうか。

増える荘園

10世紀になると、貴族や寺社、地方の有力者などは土地の開墾を進め、多くの広い荘園をもちました。11世紀半ば以降、貴族や大寺社は、国司による税の取り立てを免除される特権を得て、地方の有力者などから土地を寄進されて荘園領主となりました。現地の管理を任せられた地方の有力者は、その特権を生かして荘園の支配を進めました。また、国司は、地方の有力者たちを役人として、荘園以外の土地(公領)の支配を任せため、公領も地方の有力者の領地となっていきました。こうして荘園・公領ともに、地方の有力者による土地支配が強まっていきました。

こうした動きを背景に、社会全体で土地が財産として重視されるようになり、土地にかけられる年貢などの税が生まれました。地方の有力者は、農民から税を得るため、必死に領地を獲得するようになりました。土地の権利や境界などをめぐって争いがしきりに起こり、人々は自分の力で土地を守らなければならなくなりました。こうして土地の私有を基礎とし、武装してみずからの力で紛争を解決しようとする社会が形成されていきました。そして、大寺社も武装した僧侶(僧兵)をもち、実力で要求を通そうとするようになりました。



↑2 中世の荘園絵図 中心に田があり、周辺にいくつか集落がみられます。領主は、みずからの領地の範囲を定めるため、絵図をつくりました。【文|紀伊国樟田荘絵図|京都市 神護寺蔵】

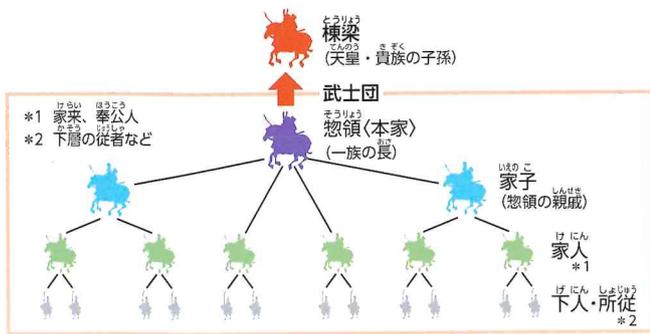
平将門

?~940

「新皇」と名乗った武士



下総の国(千葉県・茨城県の一部)の武士である平将門は、祖父からもらった土地を伯父に奪われてしまい、そこから武力での争いが起こりました。伯父に勝利した将門の下には、関東で中央政府に不満を抱く者が集まりました。勢いに乗った将門は常陸(茨城県)や下野(栃木県)・上野(群馬県)に攻め込み、国司を追い出しました。そこでみずから「新皇(新しい天皇)」を名乗り、新しい国家づくりを始めました。しかしその後、わずか50日余りで中央政府側の武士に討たれてしまいました。



↑3 武士団のしくみ



↑4 武士団と各地の争乱

武士の役割

9~10世紀には、荘園・公領をめぐる各地の争いや、蝦夷などの抵抗が増加し、朝廷を悩ませました。そうしたなかで、都の武官や地方の有力者たちは弓矢や騎馬などの武芸を身につけ、**武士**とよばれるようになりました。武士は、天皇の住まいや朝廷の警備、犯罪の取り締まりにあたりました。

都の武士が地方で国司に仕える役人となってそのまま住み着いたり、地方の武士が都で貴族に仕えたりするなど、武士は都と地方を行き来しながら、実力を蓄えていきました。彼らは、一族の長である惣領を中心に子や兄弟をまとめ上げて従者たちを率い、婚姻によってほかの有力者と手を結ぶなどして、**武士団**というまとまりをつくりました。そのなかで、天皇の子孫でもある源氏と平氏が有力な存在となり、武士の統率者(棟梁)となっていきました。

地方の武士の自立の動き

10世紀半ば、関東地方で平将門が起こした乱や、瀬戸内地方で藤原純友が海賊を率いて起こした乱は、中央政府に対して表立って刃向かったもので、貴族たちに大きな衝撃を与えました。11世紀半ばには、東北地方で有力者の勢力争いが起こり、それを源義家らがしずめたことで、源氏は東国(関東地方)に力をもつようになりました。また、奥州藤原氏は東北地方を統一し、平泉(岩手県)を中心に勢力を振るいました。

歴史プラス+ 奥州藤原氏の栄華

平泉に本拠を置いた奥州藤原氏は、清衡・基衡・秀衡の三代にわたって東北地方で栄えました。大量にとれた砂金や良馬などの交易で栄え、平泉には各地から文物がもたらされました。都の文化も積極的に取り入れ、浄土への憧れから平泉に中尊寺をつくりました。1189年、源義経をかくまったことを口実に、源頼朝によって攻め滅ぼされましたが(→p.69)、中尊寺金色堂は今も金色に輝いています。

↓5 中尊寺金色堂(岩手県平泉町)



都や地方で武士が担った役割を本文から書き出そう。

武士が現れ、成長していった背景を、都と地方に分けてそれぞれ説明しよう。

縄文
1 弥生
2
3
4
5 古墳
6
7 飛鳥
8 奈良
9
10 平安
11
12
13 鎌倉
14 南北朝
15 室町
16 戦国
17 安土・徳山
18 江戸
19
20 明治
21 大正
昭和
平成
令和



上皇と武官はどのような関係だったのかな。

↑1 春日大社に到着した白河上皇 牛車に乗った白河上皇が春日大社(奈良県)に到着した場面です。関白の藤原師実が階段の近くで出迎えています。【資料活用】右側と左側に並んでいる人々は、それぞれどのような人か、服装等に注目して考えよう。【図録】春日権現験記絵 皇居三の丸尚蔵館蔵

2 朝廷と結びつく 武士

1節の問い なぜ、武士が政治の実権を握るようになったのだろうか。

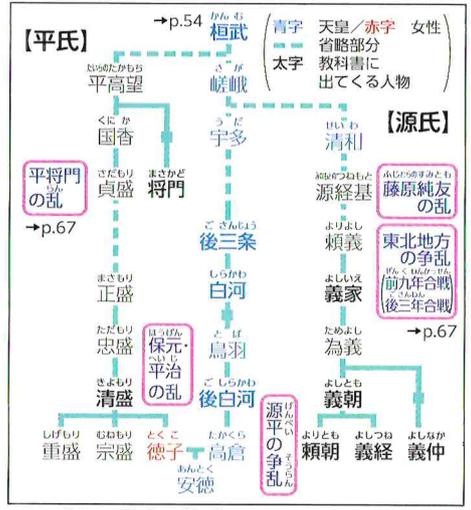
学習課題

平氏は、どのようにして政治の実権を握ったのだろうか。

院政と武士 11世紀後半、藤原氏と血縁関係が薄い後三条天皇が即位して、天皇中心の政治が復活しました。その子の白河天皇は、天皇の位を幼い皇子に譲って上皇となった後も、摂政や関白の力を抑えてみずから政治を行いました。上皇やその住まいを「院」とよんだので、この政治を院政といいます。

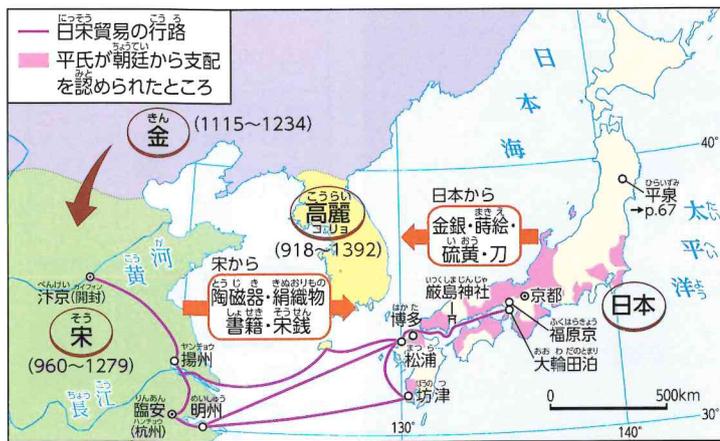
解説 院政 天皇に位を譲った上皇が行った政治です。上皇は政治のしくみ(→p.40)にない立場だったため、先例にとられない政治を行えました。

院政が始まると、院や天皇が大寺社や貴族に広大な荘園を認めるようになったため、院に多くの寄進がなされました。こうして荘園はますます増えていき、社会を支える重要な基礎となりました。一方、武士はみずからの土地の権利や境界をめぐる各地で紛争を起こしました。武士は、土地を守るために強い棟梁と武士団を頼ったので、源氏や平氏が大きな力をもつようになりました。



↑2 平氏と源氏の系図

12世紀半ば、院政の実権をめぐる争いが起こり、朝廷内が二つに分かれて激しく争いました。後白河天皇は、源義朝や平清盛ら武士の協力を得て兄の上皇に勝利しました(保元の乱)。やがて後白河上皇の政権内で勢力争いが起こり、清盛が義朝を破って勢力を広げ、義朝の子の源頼朝を伊豆(静岡県)に流しました(平治の乱)。



↑4 厳島神社(広島県 廿日市市) 瀬戸内海にある厳島神社は、平清盛の援助で整備され、現在のような海上に浮かぶ建物になりました。

平氏の栄華

平清盛の奥方の弟、大納言平時忠は「平氏一門でない人は人ではない」とおっしゃった。こんなありさまだったので、貴族たちは工夫して平家一門と縁を結ぼうとした。烏帽子の折り方や着物の着方などすべてのまねをした。

【『平家物語』より、一部要約】



平氏の政治と日宋貿易

平治の乱に勝利した平清盛は、武士として初めて太政大臣となり、政治の実権を握りました。また、清盛は娘を天皇と結婚させ、その子を天皇にして朝廷との関係を深めました。平氏一族はいずれも高い官職や位に就き、西国(西日本)を中心に広大な荘園と公領を支配しました。

11世紀以来、日本と宋・高麗との間には民間の商人による貿易が盛んに行われていました。清盛は、航海の安全を確保するため瀬戸内海の航路を整え、大輪田泊(兵庫県神戸市にあった港)を修築して日宋貿易を進め、大きな利益を得ました。

源平の争乱と平氏の滅亡

政治や富を独占する平氏に対して、貴族や大寺社、武士の多くが不満を抱きました。清盛が後白河上皇の院政を停止すると、源氏を中心とする諸国の武士が平氏打倒のために兵を挙げました。伊豆の源頼朝は、東国の武士の支持を集めて勢力を伸ばしました。頼朝の命を受けた弟の源義経は、木曾(長野県)の源義仲によって都から追い出された平氏を西国に追い詰め、1185年に壇ノ浦(山口県)で平氏を滅ぼしました。

源義経 小地公

1159~89

平氏を滅ぼした戦の天才

義経は源頼朝の弟で、幼少期に京都の鞍馬寺へ預けられ、後に奥州平泉で過ごしました。兄の拳兵を知って鎌倉にかけつけ、一ノ谷や屋島、壇ノ浦合戦など、優れた軍略で平氏追討に大きな功績を挙げました。しかし、後白河法皇の信用を得て頼朝の許可なく官位を受けたことで、武家中心の政権を目指す頼朝の怒りを買って、幕府から追われる身となりました。その後、再び身を寄せた平泉で自害しました。

確認しよう

平清盛が権力を強化するために行ったことを、本文から書き出そう。

説明しよう

平氏と藤原氏の政治の、共通点と異なる点を、「天皇」「貿易」という言葉を使って説明しよう。

縄文
弥生
古墳
飛鳥
奈良
平安
鎌倉
南北朝
室町
戦国
安土桃山
江戸
明治
大正
昭和
平成
令和



↑1 武士の館 筑前国(福岡県)の武士の館です。見張り台など、自身の領地を守るための工夫がみられます。【『一遍上人絵伝』神奈川県 藤沢市 清浄光寺(遊行寺)蔵】



↑2 鎌倉幕府の将軍と御家人の関係 御家人とは、鎌倉幕府に従う武士のことです。



3 鎌倉を中心とした武家政権

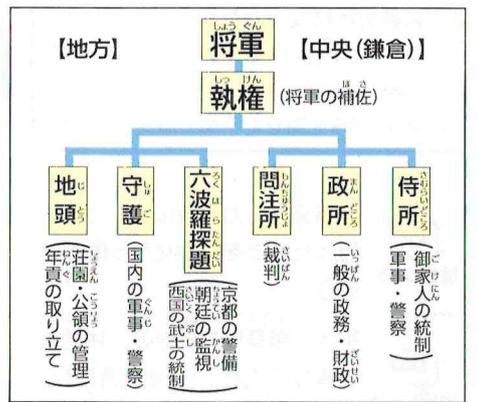
1節の問い なぜ、武士が政治の実権を握るようになったのだろうか。

① 鎌倉時代の始まりをいつにするかには諸説あります。1185年に守護・地頭を置いた時期という説や、1192年に頼朝が征夷大將軍に任命された時期という説などがあります。

→3 源頼朝 (1147～99) [山梨県 甲府市 善光寺(甲斐善光寺)蔵]



小地公



↑4 鎌倉幕府のしくみ

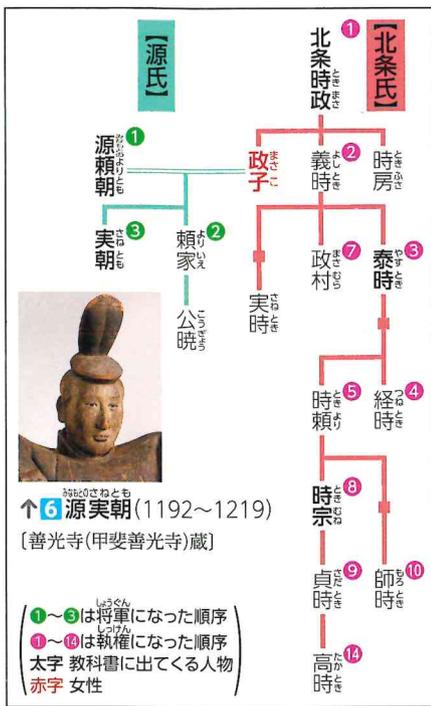
学習課題 鎌倉幕府は、どのようにして武士たちを支配したのだろうか。

鎌倉(神奈川県)を拠点とした源頼朝は、無断で朝廷から官位を受けた源義経を許さず、逃げた義経を捕らえることを口実に、1185年に国ごとに守護を、荘園や公領に地頭を設置しました。また義経をかくまった平泉の奥州藤原氏を滅ぼして、東北地方をも支配下に置きました。そして1192年、頼朝は征夷大將軍に任じられました。

頼朝の開いた鎌倉幕府は、家来となることを誓った武士を御家人にして、先祖から引き継いできたその領地の支配を認め、手柄に応じて新たな領地や守護・地頭の職を与えました(御恩)。御家人たちは、京都や鎌倉の警備につき、合戦の際には一族を率いてかけつけました(奉公)。この御恩と奉公による主人と家来の主従関係をもとに、住民や土地などを支配するしくみができました。

武士の生活と地頭の支配

武士は、周囲を堀や土塁で囲まれた屋敷に住み、「弓馬の道」とよばれる武芸に励んで戦いに備えました。また、武士たちは惣領を中心に血縁で結びついていました。荘園や公領では、地頭となった武士が土地や農民を支配しようとして領主とたびたび争いました。これらは幕府の裁判などによって決着し、地頭は土地の半分を得たり、年貢の一部を領主に納める約束



↑5 源氏と北条氏の系図 執権は16代まで続きますが、全員が北条氏でした。

北条政子の言葉

(1221(承久3)年5月19日)

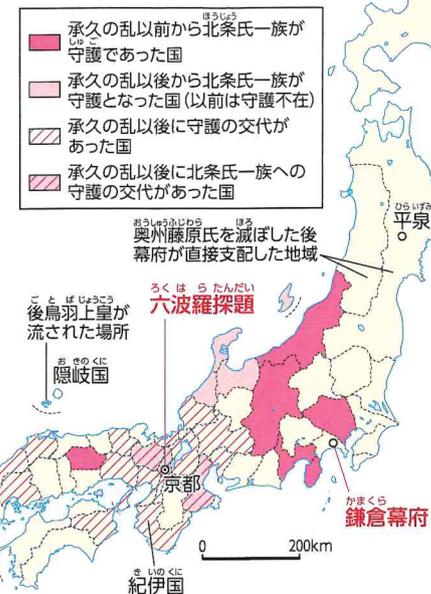
皆の者よく聞きなさい。これが最後の言葉である。亡き頼朝公が朝廷の敵を倒し、幕府を開いてから、官位や土地など、その御恩は山よりも高く海よりも深い。この御恩に報いる心が浅くてよいはずがない。…名誉を失いたくない者は、敵を討ち幕府を守りなさい。

〔「吾妻鏡」より、一部要約〕



↑7 北条政子 (1157~1225)
[(株)Gakken写真資料 安養院蔵]

→8 承久の乱前後の日本
資料活用 北条氏の勢力の広がりを確認しよう。



→9 農民の訴状
1275年、紀伊国(和歌山県)阿比河荘で、農民が荘園領主に地頭の乱雑な支配について訴えました。訴状には、地頭の労役などのため年貢を一部納められないことや、地頭に脅されることなどが書かれています。

〔国史和歌山県 高野町 高野山金剛峯寺蔵〕

で支配を任されたりしたので、力を強めていきました。武士が亡くなると領地は妻と子で分割相続されたので、女性の地頭も多くなりました。

執権政治の展開

頼朝の死後、幕府の実権は、妻の北条政子とその父時政が握り、後に時政は将軍の補佐役である執権となりました。3代将軍源実朝が暗殺されて源氏の将軍が途絶えると、院政を行っていた後鳥羽上皇が、1221(承久3)年に幕府を倒すため兵を挙げました。しかし、味方となった武士は少なく、上皇は幕府軍に敗れ、隠岐国(島根県)へ流されました。以後、北条氏は代々、執権として御家人たちをまとめ、幕府を運営していくようになりました。これを執権政治とよびます。

上皇側に味方した貴族や武士から取り上げた土地は、幕府側の東国の武士に恩賞として与えられたので、幕府と東国の武士による支配が、西国にも拡大しました。また、幕府は京都に六波羅探題を置き、朝廷を監視し、西国の武士を統制するようになりました。

1232(貞永元年)年、執権の北条泰時は、御家人の権利や義務、また裁判の基準などをまとめた御成敗式目(貞永式目)を制定しました。これは朝廷が定めた律令とは別の、武士のしきたりに従った独自の法で、その後各地に広まり、武家政治の基準とされました。

御成敗式目(貞永式目)

- 一、頼朝公の時代に定められた、諸国の守護の職務は、国内の御家人を京都の警備にあたらせること、謀反や殺人などの犯罪人を取り締まることである。
- 一、武士が20年の間、実際に土地を支配しているならば、頼朝公の時代の例に従って、その土地の支配を認める。
- 一、女性が養子を迎えることは、律令では許されないが、頼朝公の時代から今日まで、子のいない女性が土地を養子に譲ることは、武家社会のしきたりとして数え切れないほどある。

幕府と御家人をつなぐ「御恩」と「奉公」の具体的な内容を、本文から書き出そう。

鎌倉幕府が全国の武士たちを支配できた理由を説明しよう。

縄文
1 弥生
2
3
4
5 古墳
6
7 飛鳥
8 奈良
9
10 平安
11
12
13 鎌倉
14 南北朝
15 室町
16 戦国
17 安土松山
18 江戸
19
20 明治
21 大正
22 昭和
23 平成
24 令和



(全長約8.4m)
〔(公財)美術院提供〕

金剛力士像にはどんな特徴があるのかな。



↓1 東大寺南大門(下)と2 金剛力士像(左:阿形 右:吽形) 東大寺(→p.48)の南大門は、平安時代に強風で倒壊しましたが、1199年に宋の技術を取り入れて再建されました。門のなかには、運慶らによってわずが69日で作られたといわれる金剛力士像が置かれています。



武士の気風にあった力強い文化

→3 円覚寺舍利殿 臨済宗の寺院です。およそ15世紀前半の建築ですが、鎌倉時代に伝わった禅宗様式の特徴をよく示しています。



↓5 鎌倉の様子 鎌倉は三方が山に囲まれ、南が海に面した守りやすい地形でした。源頼朝が幕府を開くと、鎌倉は10万の人口を抱える大都市に発展し、和賀江島では中国の品も取り引きされました。

〔画：香川元太郎氏〕



↑4 切り通し(名越) 切り通しは、鎌倉に出入りするための通り道でしたが、同時に防衛の要でもありました。

1	總文
2	1 弥生
3	2
4	3
5	4 古墳
6	5
7	6 飛鳥
8	7 奈良
9	8
10	9 平
11	10 安
12	11
13	12
14	13 鎌倉
15	14 南北朝
16	15 室町
17	16 戦国
18	17 安土・松山
19	18 江戸
20	19 明治
21	20 大正
22	21 昭和
23	22 平成
24	23 令和

『平家物語』 祇園精舎

祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響あり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰のことわりを表わす。おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。たけき者もついに滅びぬ、ひとえに風の前の塵に同じ。

『平家物語』 那須与一

沖には平家、舟を一面に並べて見物す。陸には源氏、くつばみを並べてこれを見る。…与一、鎧を取ってつがひ、よっぴいてひよど放つ。…あやまたず、扇の要際、一寸ばかりおいて、ひいふっとぞ射切ったる。鎧は海へ入りければ、扇は空へぞ上がりける。 【一部要約】



【『源平合戦図屏風 屋島合戦図』兵庫県 神戸市立博物館蔵】

【6】『平家物語』を題材とした江戸時代の『源平合戦図屏風』(右) 平家の繁栄から壇ノ浦で滅亡するまでを描いた軍記物の『平家物語』には、源義経による一ノ谷の逆落としか、那須与一が扇の的を射る逸話など、源平の争乱における武士の活躍が描かれました。後世には、絵巻物や屏風の題材としても好まれました。【資料活用】 赤地に黄色い丸の扇を射落とした、那須与一を探してみよう。

4 武士や僧侶たちが広めた鎌倉文化

1節の問い なぜ、武士が政治の実権を握るようになったのだろうか。

鎌倉時代には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。

武士の台頭と新しい文化

鎌倉時代には、貴族を中心とした伝統文化を基盤に、新たに支配者となった武士の気風に合った、力強く誰にでも分かりやすい芸術や文化が、京都や奈良、鎌倉を中心に発展しました。源平の争乱で焼け落ちた東大寺は、各地の人々の支援や源頼朝の援助によって再建されました。宋の様式を取り入れてつくられた東大寺南大門や、運慶や快慶らによってつくられた金剛力士像からは、力強い武士の気質が読み取れます。

戦乱に関心を抱く人々の声に応え、武士の活躍と運命を描いた軍記物も生まれました。特に『平家物語』は琵琶法師によって語られ、

文字を知らない人々もその世界に引き込まれました。また、戦いの様子や信仰に励む武士や庶民の姿などをいきいきと描いた多くの絵巻物や、似絵とよばれる写実的な肖像画もつくられました。西行のような武士出身の歌人も現れ、彼の歌は、後鳥羽上皇が藤原定家に編集させた『新古今和歌集』に数多く収められています。また、鴨長明の『方丈記』や兼好法師の『徒然草』のような随筆も書かれ、そこからは当時の人々の考え方や生活をうかがい知ることができます。

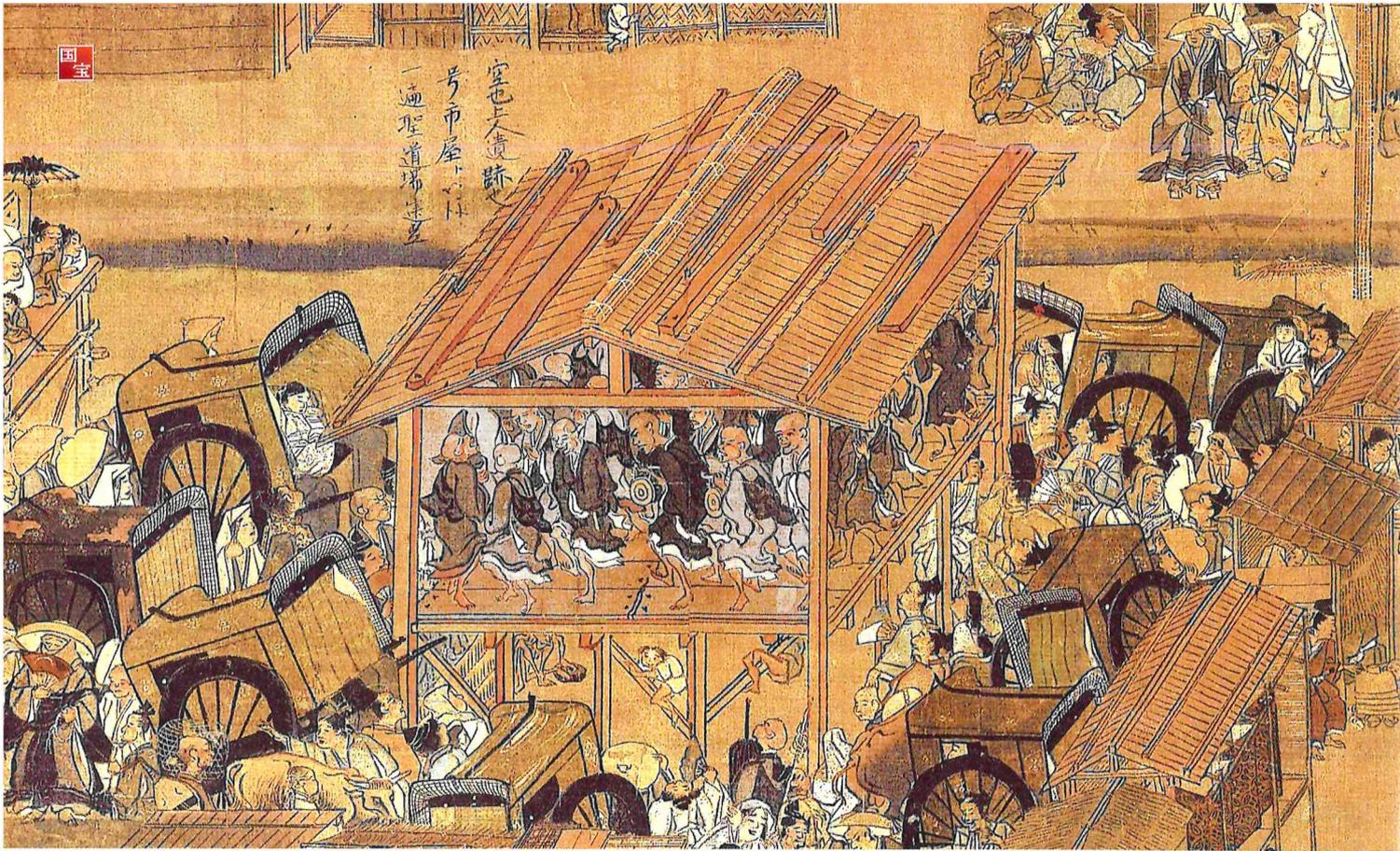
未来に向けて 鴨長明がみた 自然災害 防災

12世紀末の京都では大火や竜巻、飢きん、地震が相次ぎ、餓死者は2か月間に4万2千人余りにものぼりました。『方丈記』は、災害を前になすすべもない人々を目の当たりにした鴨長明が、この世の無常を説いた随筆として知られています。

『方丈記』

…また、同じ頃、はげしく大地が揺れることがあった。その様子はただごとではない。…地震が起こった直後は、人々はつまらないことを言って不安を和らげようとしたけれど、年月が経つと、誰も地震のことなど言い出す人なんていなくなってしまう。

【一部要約・抜粋】



↑7 踊り念仏 踊り念仏は「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えながら足を踏み鳴らす踊りです。【『一遍上人絵伝』東京国立博物館蔵】
 資料活用 踊り念仏には、どのような人々が見物に集まっているか、確認しよう。

地域史 仏教の隆盛を伝える「鎌倉大仏」
 鎌倉では、禅宗以外にもさまざまな仏教が信仰されました。浄土宗の高徳院には、鎌倉大仏として知られる青銅製の阿彌陀如来像があります。高さは約11mと東大寺の大仏(→p.47)に次ぐ大きさで、鎌倉幕府や北条氏の支援によって13世紀半ばに造立されたと考えられています。はじめは大仏殿がありましたが、14世紀の台風や15世紀末の地震によって損壊し、以降は野外にあるまま保存修理が繰り返されています。
 ↓8 鎌倉大仏【神奈川県 鎌倉市 高徳院】



武士と庶民の心をとらえた鎌倉仏教

12世紀以降の日本列島では、気温と降水量の変動が激しい時期が続き、たび重なる災害や飢きん、疫病に見舞われ、戦乱も相次ぎました。仏教に新たな救いを求める人々の願いにこたえて、比叡山の延暦寺で学んだ僧侶を中心に、分かりやすく信仰しやすい教えが生み出されました。

源平の争乱のころに登場した法然は、平安時代からの浄土信仰を継承し、一心に念仏(南無阿彌陀仏)を唱えれば死後、誰でも極楽に行けるといふ教え(浄土宗)を説きました。また法然の弟子親鸞は、阿彌陀仏を信じてすべてをまかせる心が重要と説き、関東の武士や民衆たちに広く支持されました(浄土真宗・一向宗)。栄西(臨済宗)や道元(曹洞宗)は、当時中国の宋で繁栄していた、座禅によって悟りを開く禅宗をそれぞれ日本へ伝えました。心を落ち着かせることに適した座禅は、命を懸けて戦う武士に受け入れられ、禅宗は幕府によって保護されました。このことから宋の僧侶が鎌倉へ迎えられようになり、その知識や技術によって鎌倉では禅宗の影響を受け



↑9 **法然**(1133～1212) 旧仏教からの批判を受けて讃岐(香川県)に流されました。貴族から民衆まで教えを広めました。[京都市 知恩院蔵]



↑10 **親鸞**(1173～1262) 法然の弟子で越後(新潟県)に流されました。後に、飢きんに苦しむ関東で約20年間にわたって布教を行いました。[京都市 西本願寺蔵]



↑11 **栄西**(1141～1215) 幕府の保護を受け鎌倉や京都で活動しました。宋から茶の種を持ち帰って栽培し、喫茶の文化を広めました(→p.83)。[京都市 建仁寺蔵]



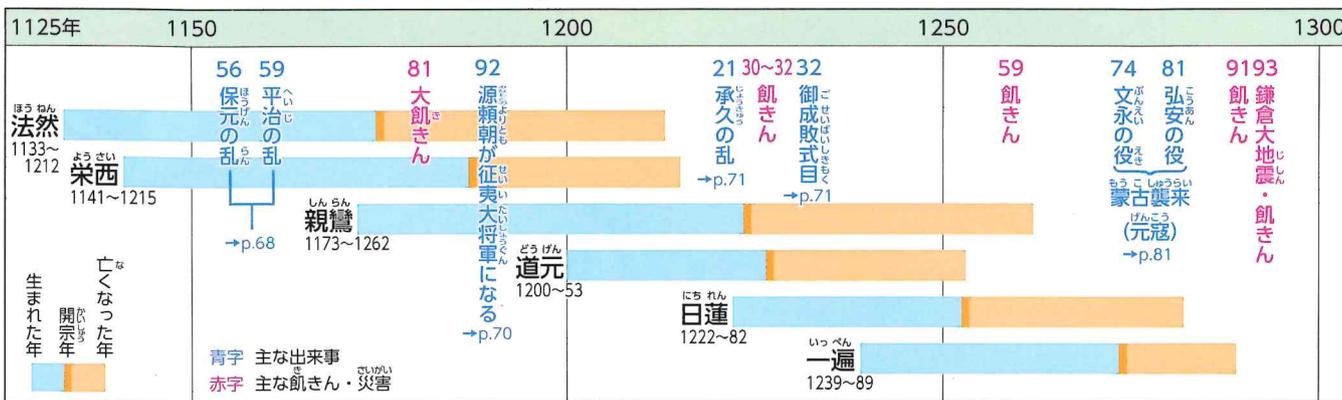
↑12 **道元**(1200～53) 宋から帰国すると、弾圧を避けて越前(福井県)に永平寺を建立し、禅の普及に努めました。[福井県 大野市 宝慶寺蔵]



↑13 **日蓮**(1222～82) 幕府や他宗を強く批判し佐渡(新潟県)に流されましたが、法華経の教えを広めました。蒙古襲来(→p.80)を予言したといわれます。[山梨県 身延山久遠寺蔵]



↑14 **一遍**(1239～89) 踊り念仏をしたり、念仏札を配ったりするなどして、九州から東北に至る各地を訪れ、布教の旅を続けました。[神奈川県立歴史博物館蔵]

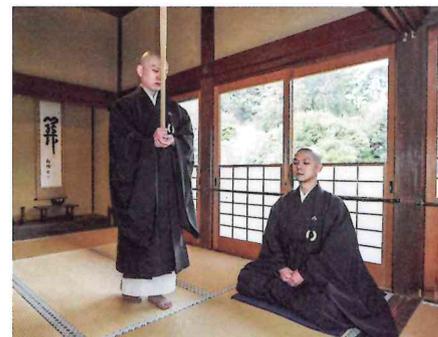


↑15 鎌倉時代の新仏教と主な出来事

た文化が花開きました。

鎌倉時代後半になると、法華経を重視した**日蓮**が現れ、題目(南無妙法蓮華経)を唱えれば日本の国も人々も救われると説きました(日蓮宗)。また、法然の弟子に学んだ**一遍**は、踊り念仏を行って、人々に念仏信仰を勧めました(時宗)。こうした新しい仏教は、当時すぐには広まらなかったものの、しだいに庶民の心をとらえていきました。

一方、鎌倉時代に入っても、奈良時代の仏教や、平安時代の天台宗・真言宗などの、古代から続く伝統的な仏教は根強く信仰されていました。こうした旧仏教の寺院は、朝廷や幕府のために祈とうを行ったほか、重病人を救済するための施設や貧しい人々への慈善事業、道路・橋をつくる土木事業なども行っていました。また、日本古来の神と仏教とが融合した神仏習合の考えも広まり、新しい神道も生まれました。



↑16 **座禅** 足を組んで座り、精神を集中させ、自分の力で悟りを開くことを目指します。現代では、海外でも人気を博しています。[神奈川県 鎌倉市 建長寺]

鎌倉時代の芸術・文化と、新しい仏教に共通する特色を、本文から書き出そう。

確認しよう

鎌倉時代の文化の特色と、新しい仏教のおこりには、どのような時代背景があるか説明しよう。

説明しよう

縄文
弥生
古墳
飛鳥
奈良
平安
鎌倉
南北朝
室町
戦国
安土・徳川
江戸
明治
大正
昭和
平成
令和

アクティビティ に挑戦 **A**

武士の暮らしから考察する



ワークシート

見方・考え方

貴族と比較して、武士の暮らしの特徴に着目しよう。

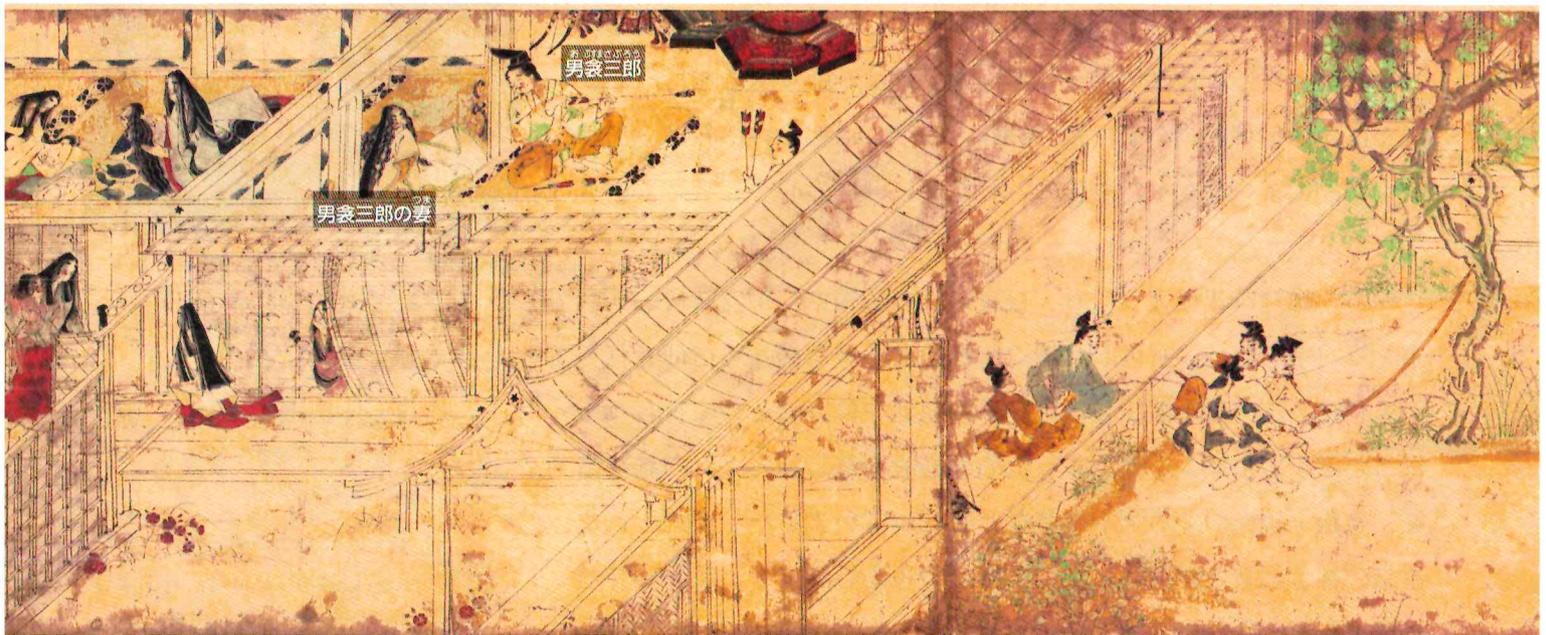
考察の視点

中世には、武士(→ p.67)が政治の実権を握ります。彼らの暮らしは、平安時代の貴族(→ p.56)とはさまざまな点が異なりました。中世の絵巻物『男衾三郎絵詞』から、武士の暮らしの特徴、そしてこの時期の特色について考えてみましょう。

テーマ 武士の暮らしから、どのようなことが分かるだろうか。



※上下の二つの図は、実際には一つの絵巻物です。上段の左端と下段の右端につながります。



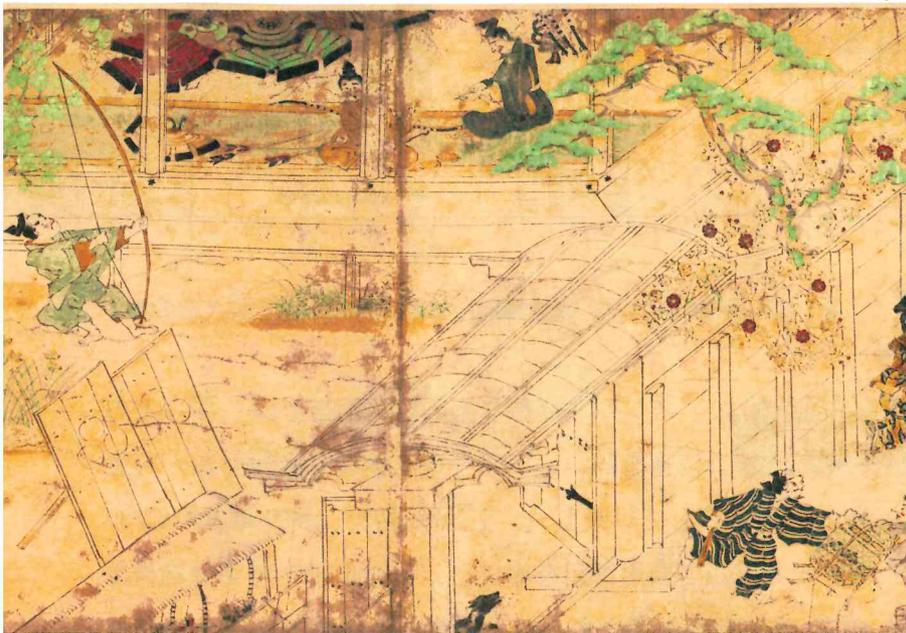
技能をみかく 10 理由を考えながら資料を読み取る

資料を読み取る際には、ただ書かれていることを見るだけでなく、当時の時代背景や作者の意図など「なぜ、そのように書かれているのか」まで考えを深めることが大切です。それにより、資料からより多くの情報を引き出すことができます。

●男衾三郎絵詞とは…

鎌倉時代に描かれた絵巻物(→p.56)です。東国に住む兄弟の武士、兄の吉見二郎と弟の男衾三郎の物語が描かれています。この場面では、男衾三郎の屋敷と、彼の家来たちが描かれています。

※上段の右端がこの絵巻物の始まりです。



〔東京国立博物館蔵〕

TRY

整理しよう

絵巻物を見て、武士の暮らしについて、以下のAとBを書き出そう。

A. 武士(男衾三郎)の屋敷や人々の様子について、見つけたことを書いてみよう。

B. 武士の暮らし(衣服、屋敷、行動)で、p.56～57の図1と比べて異なる点を書いてみよう。

考えよう 対話

この絵巻物の作者が伝えたかったことは何だろうか。時代背景を踏まえて考え、グループで話し合おう。その際、「整理しよう」で書き出した内容を根拠に、なぜそのように考えたのかグループの人に説明しよう。

表現しよう

絵巻物のこの場面に、タイトルと解説文をつけてみよう。「考えよう」で話し合った内容を踏まえて、このように描かれた理由を意識しながら、あなたの言葉で表現しよう。

場面のタイトル

解説文